

☑平成 30 年度 事務事業評価(平成29年度実施事業事後評価)シート / 平成 31 年度 実施計画調書 (新規 拡充 縮小 休止・廃止 現状維持)

1 事務事業の基本情報

☞ 位置付けられている計画等で『その他の計画』が複数ある場合は、代表的なものを1つ記入してください。また、該当する根拠法令及び市条例等が複数ある場合、代表的なものを1～2個記入してください。

事務事業名	交通対策経費	補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (平成 年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない	予算科目	区分	一般会計	款	2	項	1	目	6	事業	3
担当部	総務部	担当課	行政経営課	担当係	行政経営 係	作成者	落合宣之	内線(電話番号)	3410	シート作成日	H30.10.24	部長決裁日	H30.10.24			
位置付けられている計画等	<input checked="" type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input checked="" type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称 :)			根拠法令及び市条例等	<input checked="" type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称 : 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称 :) <input type="checkbox"/> 市の条例・要綱・規則等 (名称 :)											

2 事務事業の目的

☞ 当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどうか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。

現状課題	本市の交通体系は、南北に市民の足として重要な関東鉄道常総線が走り、路線バスも5路線運行している。交通空白地帯の解消と、それらを補完するものとして、予約型乗合交通ふれあい号を運行している。しかし、「じょうそう未来創生プラン」における市民アンケート結果では、公共交通機関に対する市民満足度は低い結果であった。なお、ふれあい号は利用登録することで、1人で乗車できる市民が利用可能で、利用者の80%以上が70歳以上の年齢の方で占められている。	誰・何を対象に 市民	どのような方法・手順で 予約型乗合交通の充実や路線バスの維持、鉄道利用の充実と近隣市町との連携を図り本市域内公共交通の維持を図る。	望ましい状態 本市の地勢を考慮し、民間の公共交通と連携した、真に利用したい人が将来的に安定して利用できる持続可能な公共交通の確保が必要である。そのため、高齢者にも気軽に利用していただける公共交通の在り方を事業者と共に目指し、適正な受益の負担を求めるとともに、持続可能な仕組みの構築を目指す。
------	---	---------------	--	--

3 事務事業の主たる成果指標

☞ 数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。

指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者数	単位	人	目標値	100	目標年次	平成 32 年度	指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	関東鉄道常総線を軸とした公共交通体系を充実させるため、民間の路線バスの運行を維持できるようタクシー事業者と連携し、予約型乗合交通の利便性の向上を図る。そのため、利用者数が多かった平成23、24年度の実績値とする。
-----	-------------------	----	---	-----	-----	------	----------	-------------------------------------	--

4 事務事業の実績 ①

☞ 当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。

年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度							
	業務名	活動量	業務名	活動量	業務名	活動量						
事務事業を構成する主な業務	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	3回 222日	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	3回 240日	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 241日						
	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線ガイドブックの作成	3回 5000部	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線ガイドブックの作成	3回 5000部	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線PRプロダクトの開催	3回 1回						
	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	5回	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	6回	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	1回 5000部						
	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び県西縦断道路建設協議会への出席	4回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び県西縦断道路建設協議会への出席	3回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び県西縦断道路建設協議会への出席	7回						
	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	1回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び県西縦断道路建設協議会への出席	4回						
	⑥ バス運行対策協議会への出席	2回	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回						
	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回						
	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出資	1回	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出資	1回	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回						
	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回	⑧ 第41回都市計画セミナーへの参加 ⑨ 茨城空港利用促進等協議会への出資	1回 1回						
目標値に対する実績値		87.9 人	目標値に対する実績値		84 人	目標値に対する実績値		82 人				
決算額	計	38,983,676 円	内訳	特定財源 円 一般財源 38,983,676 円	計	36,000,836 円	内訳	特定財源 円 一般財源 36,000,836 円	計	38,305,508 円	内訳	特定財源 円 一般財源 38,305,508 円
	(住民一人あたりの行政コスト)		630 円	(住民一人あたりの行政コスト)		592 円	(住民一人あたりの行政コスト)		634 円			

5 担当者評価 ②

☞ 実施したことによる成果や問題点を記入してください。

成果	常総ひかり農業協同組合支店の統廃合により、チケット販売所が減少したため、平成30年1月から事業者の協力のもと、車内販売を開始した。利用者の減少により当初の目標値の修正を行ったが、新たな目標の達成には至らなかった。今後は、利用者人数の増加を目指すだけでなく、利便性の向上も目指したうえで、民間の公共交通と連携した上手なふれあい号の利用方法を啓蒙していく。また、今年度は筑波大学との共同研究を行い、利用者にアンケートを実施するなど、市民満足度の向上を図る。
問題点	問題点として、ふれあい号は市内運行のみであるが、市外の病院へ行きたいとの要望がある。仮に市外への交通手段としてふれあい号を利用した場合、市内での移動手段が不足するなど運行台数を確保できなくなったり、民間事業者の営業の妨げになるなど、真に利用したい市民が利用できなくなるといった事態に陥ることが想定される。決算額と予算額の差については、国の補助制度を利用するため、常総市公共交通活性化支援協議会が運営主体となり、市が負担金を支出しており、年度末に運賃収入等を含めた運行事業に対する不用額を市に対して戻し入れるためである。

6 担当部長及び担当課長評価 ③

☞ 担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。

事務事業の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
評価理由	ふれあい号の1回/人の利用にあたり2,000円以上の税負担を行っていること、また、現在県内でデマンド交通の中で最も安価な利用料金であること、さらに、全国的に行政が運行主体である交通手段の利用料金が、民間では太刀打ちできない低廉な利用料金で運行していることから、民業を圧迫し、ひいては公共交通の衰退に繋がっている現状を踏まえると、今後も継続してふれあい号を運行していくためには、まずは利用料金を県内の状況に足並みをそろえ、収支率の向上を図ってまいりたい。

7 実施計画 ④

☞ 今後3年間の事業内容について、どのようなことを実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の「歳出の計」と「歳入の計」は一致させてください。

年度	平成30年度		平成31年度		平成32年度					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の足として予約型乗合交通ふれあい号を運行 ・1回250円、1日9便、市内の移動手段 ●事業者会議の開催 ●委託先の社会福祉協議会との打ち合わせ ●予約オペレーターとの意見交換会 ●筑波大学との共同研究による「ふれあい号」の利用状況分析 ●チケットの販売、新規登録者の受付、利便性の改善 ●予約システムの維持管理 ●利用者アンケート(満足度調査) ●常総市公共交通活性化協議会の開催 ●本市の公共交通全体の事業の進捗管理 ●国への補助申請 ●地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請 ●茨城県公共交通活性化会議への出席と要望 ●県の補助制度及び事業内容について研修 ●公共交通の広域連携事業の検討 ●今後の広域連携事業の検討、推進 ●常総線沿線のPR及び関鉄イベントへの協賛 ●駅からウォーク、ビール列車への協力 ●地下鉄8号線建設促進会の総会、幹事会への出席 ●延伸の推進と要望活動 ●東北新幹線新駅設置にかかる検討会への出席 ●新駅設置の要望活動 		<ul style="list-style-type: none"> ●予約型乗合交通ふれあい号の予約システム更新・改修 ●市民の足として予約型乗合交通ふれあい号を運行 ・1回250円、1日9便、市内の移動手段 ●事業者会議の開催 ●委託先の社会福祉協議会との打ち合わせ ●予約オペレーターとの意見交換会 ●チケットの販売、新規登録者の受付、利便性の改善 ●予約システムの維持管理 ●料金の見直しについて、周知、意見徴収、活性化協議会への提案 ●常総市公共交通活性化協議会の開催 ●本市の公共交通全体の事業の進捗管理 ●国への補助申請 ●地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請 ●茨城県公共交通活性化会議への出席と要望 ●県の補助制度及び事業内容について研修 ●公共交通の広域連携事業の検討 ●今後の広域連携事業の検討、推進 ●常総線沿線のPR及び関鉄イベントへの協賛 ●駅からウォーク、ビール列車への協力 ●地下鉄8号線建設促進会の総会、幹事会への出席 ●延伸の推進と要望活動 ●東北新幹線新駅設置にかかる検討会への出席 ●新駅設置の要望活動 		<ul style="list-style-type: none"> ●市民の足として予約型乗合交通ふれあい号を運行 ・1回250円、1日9便、市内の移動手段 ●事業者会議の開催 ●委託先の社会福祉協議会との打ち合わせ ●予約オペレーターとの意見交換会 ●チケットの販売、新規登録者の受付、利便性の改善 ●予約システムの維持管理 ●常総市公共交通活性化協議会の開催 ●本市の公共交通全体の事業の進捗管理 ●国への補助申請 ●茨城県公共交通活性化会議への出席と要望 ●県の補助制度及び事業内容について研修 ●公共交通の広域連携事業の検討 ●今後の広域連携事業の検討、推進 ●常総線沿線のPR及び関鉄イベントへの協賛 ●駅からウォーク、ビール列車への協力 ●地下鉄8号線建設促進会の総会、幹事会への出席 ●延伸の推進と要望活動 ●東北新幹線新駅設置にかかる検討会への出席 ●新駅設置の要望活動 					
	予算額	歳出	計	46,457 千円	歳出	計	45,584 千円	歳出	計	45,584 千円
		歳入	特定財源	千円	特定財源	千円	特定財源	千円		
			一般財源	46,457 千円	一般財源	45,584 千円	一般財源	45,584 千円		
計			46,457 千円	計	45,584 千円	計	45,584 千円			

8 財務アドバイザーの見解

『常総市財政健全化計画』では、平成29～31年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は平成31年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については費用対効果が最も高いと判断された平成27年度の一般財源決算額の金額以下の予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。

9 行政改革懇談会(市民)の意見

担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。車を運転できない高齢者等交通弱者のために必要な事業であるとする。目標達成率が約80%程度のため、乗合交通の更なる利便性の向上が重要である。なお、受益者負担の観点から値上げで対応する等、検討の余地があるとする。

10 最終評価(行政改革推進本部) ⑤

事務事業の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
評価理由	予約型乗合交通ふれあい号については、導入当初から一度も利用料金の見直しが行われておらず、運行にあたっては多額の税金が投入されている。今後も継続して運行するにあたり、社会経済情勢や民間公共交通の利用料金、さらには他自治体との利用料金の比較検討を踏まえたうえで、適正な利用料金の見直しを行い、収支率を考慮した運行に努めていく。

11 事務事業の改善理由 ⑥

☞ 実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止廃止部分もこの欄に記入してください。

事業内容	予算額と決算額の差異については、社会福祉協議会への委託料の不用額と、国からの補助金による歳入を納閉鎖期間中に市に戻入れしているため(H29年度:10,963,229円)。なお、国からの補助金は当該年度末に金額が確定するため、補助金を見込まない予算要求をせざるを得ない。(H29年度補助金額:8,089,000円)。
------	---